

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年03月04日

計画の名称	湯之元駅周辺における区画整理による安心・安全なまちづくり（防災・安全）													
計画の期間	令和03年度 ～ 令和07年度（5年間）											重点配分対象の該当	○	
交付対象	日置市													
計画の目標	「日置市通学路交通安全プログラム」に基づき、区画整理区域内に対する通学路の安全対策が必要な箇所の対策を実施し、児童生徒等の安全確保を行い、安心安全なまちづくりを目指す。 また、湯之元駅周辺において土地区画整理事業の手法で駅前広場や都市基盤および宅地の整備により、地区内の既存建物の耐震化率の向上や既存の医療施設や温泉施設へのアクセスを向上させ、安心安全な魅力あるまちづくりと温泉街のにぎわいを復活させる。													
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）		1,089	A	1,089	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		(R3当初)	(R5末)	(R7末)
1	「日置市通学路交通安全プログラム」に基づき、区画整理区域内に対する通学路の安全対策が必要な箇所に対し、対策を実施した割合を向上させる。 通学路の安全対策が必要な箇所に対し、対策を実施した割合を46%向上させる。 （区画整理区域内の通学路の安全対策を実施した箇所の割合）＝（安全対策を実施した箇所）／（区画整理区域内の安全対策が必要な箇所）			
		27%	55%	73%
2	「耐震性が確保された住宅の割合」令和7年度までに住宅の耐震化率を54%にする。 地区内におけるS55以前の既存建物を除却・建築し、建物の耐震化率を12%向上させる。 （区画整理区域内の耐震化を実施した建物の割合）＝（地区内のS55年以降に建築された住宅・店舗等の戸数）／（地区内の既存の住宅・店舗等の戸数）			
		42%	49%	54%
3	駅周辺のバリアフリー化により駅へのアクセスが向上した宅地の割合の向上させる。 駅周辺のバリアフリー化により駅へのアクセスが向上した宅地の割合を15%向上させる。 （アクセス向上の割合）＝（アクセスが向上した宅地〔6m以上の道路に接する宅地〕の面積）／（宅地の計画面積）			
		55%	65%	70%

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	－	連携中核都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	街路	一般	日置市	直接	日置市	区画	改築	湯之元第一地区（（都） 湯之元赤崎線他）	区画整理 A=25.5ha	日置市	■	■	■	■	■	1,089		未策定
											小計						1,089		
											合計						1,089		

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
日置市役所東市来支所産業建設課都市計画係が担当となって事後評価を行う。	令和8年3月
	公表の方法
	日置市のホームページで公表

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	【指標1】最終目標値を下回る結果となった。 当整備期間に約1281m（約256m/年）の歩道が整備され、最終目標値に届かない状況ではあったが、特に交通量の多い駅周辺の歩道が整備されていることから、着実に通学路の交通安全対策が図られていると考える。 【指標2】最終目標値を下回る結果となった。 当整備期間に20件（約4件/年）の建築物新築等許可が申請されており、最終目標値に届かない状況ではあったが、耐震化基準に対応した建築物の建築が進められ、良好な住環境整備が図られていると考える。 【指標3】最終目標値を下回る結果となった。 当整備期間に約1.51ha（約0.30ha/年）の宅地が整備され、最終目標値に届かない状況ではあったが、駅へのアクセス向上と共に住環境及び地域の活性化の向上が図られていると考える。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	・歩道を整備することにより、子ども達以外の一般の歩行者に対しても交通安全対策を図ることができた。 ・老朽化住宅の建て替えにより建物の耐震性が上がり、地区の防災性向上に寄与することができた。 ・道路を新たに整備することにより、老朽化している上水道本管の更新も併せて施工することができ、地区のインフラ整備にも寄与することができた。

○特記事項（今後の方針等）

・引き続き土地区画整理事業を実施し、湯之元駅周辺のバリアフリー化と良好な都市基盤や宅地の整備により、既存の医療施設や温泉施設へのアクセスを向上させ、魅力あるまちづくりと温泉街の賑わい復活を目指す。また、区画整理区域内の通学路の安全対策が必要な箇所の対策を実施し、児童生徒や一般歩行者の安全確保を行い、安心・安全なまちづくりを目指す。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	73%	・ 近年の物価や人件費の高騰により、建物補償の費用が当初見込みより多く必要となったことから工事費の縮減が必要となり、宅地や道路の整備を計画通りに進められなかったことが要因だと考えられる。
	最 終 実績値	65%	
2			
	最 終 目標値	54%	・ 宅地の整備は着実に進められているが、近年の物価高により、建築物の建設が予定通りに進められていないことが要因だと考えられる。
	最 終 実績値	49%	
3			
	最 終 目標値	70%	・ 近年の物価や人件費の高騰により、建物補償の費用が当初見込みより多く必要となったことから工事費の縮減が必要となり、宅地や道路の整備を計画通りに進められなかったことが要因だと考えられる。
	最 終 実績値	67%	